

ETIC.学生アントレプレナー ケース資料

2002年7月
NPO法人 ETIC.



2002年3月に募集を開始したビジネスプランには、全国から70を超えるプランが集まりました。第一次、第二次審査を経て、最終審査に残った、5組のファイナリストによる最終プレゼンテーションが行われ、その後、ジャッジ&メンターの方々と、フィードバック/質疑応答セッションを行いました。このプレゼンテーションと、事前提出事業プランの内容をもとに、ジャッジ&メンターの方々に構成される、審査委員会によって、優秀賞の2名が決定しました。



優秀賞+感動賞

藤岡亜美さん 明治学院大学 4年

【カフェスロー・コタカチ】

エクアドルからフェアトレードによってコーヒーを輸入し販売することで、エクアドルの森林を保護し、日本の生活スタイルを、人と人とのつながりを重視する「スローライフ」への変化を促すカフェの経営事業。



優秀賞

木下齊さん 早稲田大学 2年

【地域をつなぐ震災共済】

各商店街を母体として共済組合を設立して各地域と連携し、通常時は商店街と地域間で交流して地方活性化を図り、災害発生時は疎開先として助け合う、震災共済事業。



ファイナリスト賞

尾野寛明さん 一橋大学 2年

【大学生のための教科書リサイクルEco College】

大学の高価な専門書をリサイクルするしくみを作ることで、環境問題に取り組むとともに、毎年同じ内容の講義をリフレッシュさせる。リサイクル本の販売で得た収益を学生団体の活動資金として還元することで学生の文化活動の活性化を目指す事業。

Santamania Short Film Festival

—映像祭による若手支援と地域活性化—

日本初の本格的ショートフィルムコンペティションの運営事業

三好康志 早稲田大学 4年

自分たちの力だけで一つの物をやり遂げたいという思いから、2002年2月に『Santamania Short Film Festival』という映像祭を有志の仲間達と東京三多摩地区で開催。

実績

【2002年2月映画祭開催】

日本・海外を含め456作品が応募され、初年度にして短編映像（映画）祭としては、日本最大規模。

優秀作に関してはプロバイダー「So-net」での配信によるプロモーションを行った。

挑戦

資金力などに欠ける若手クリエイターや機会に恵まれないプロのクリエイターを支援するために、才能のみで勝負できる「ショートフィルム」のコンペティションを通して、その才能が世に出て行くモデル構築を目指す。

また、東京・三多摩地区に開催地を限定し、自治体・市民ボランティアと共に活動することによって、地域活性化の一助を担っていきたい。

目標

今までの映像業界の概念にとらわれず、『ショートフィルム』という新しい映像ジャンルの中から、世界に誇れる日本の若手クリエイターの誕生を支援していくことに全力を注いでいく。

今後、映像祭の趣旨である「若手の支援」「地域貢献」を、更に推し進めるための継続的な運営形態として、NPO法人という形を検討中。

九州総合環境研究所

— 公共機関等における環境マネジメントシステム支援 —

環境マネジメントシステム(EMS)の構築・運営を支援し、組織内部・地域の活性化を目指す事業

遠藤はる奈 長崎大学 2年

関わる人々に密着した環境マネジメントシステムを、教育機関・小規模地方自治体・公共機関に導入することによって、組織活動の活性化、地域の活性化をめざしていくことを目標に ローカルな視点で環境問題に取り組む。

実績

【ISO委員会から、学生ワーキンググループとして承認】

ISO14001認証取得に向けた取り組みの構築支援と、継続的段階における業務を、大学から委託を受ける形の学生ワーキンググループとして、ISO委員会の承認済み。

具体的活動について外部の支援業者も交えて調整中。

挑戦

長崎大学環境科学部教授の運営するNPO(地域循環研究所)のバックアップを受けながら、長崎県内の教育機関や市町村レベルの自治体を対象としてコンサルタントを行う。

地域と関連性をもった、システムの構築コンサルタントとしてのノウハウをある程度築いたところで、県外の教育機関・自治体・公共機関等に支援対象を広げていき、一定の利益が出るような仕事を取りたい。

目標

単なるISO14001認証取得のためだけのコンサルティングではなく、EMSが、地域を巻き込んだ、継続的なものとなるよう環境問題への取り組みを総合的にサポートする。

これまでの学生委員会のような、内部でのボランティア活動に留まることなく、将来コンサルタントや環境審査員を目指す学生のための実体験フィールドとしても成功したい。

千年DESIGN

ーセカンドバッグ・プロジェクトー

エコバックを、日常を楽しむための1つのアイテムとして製作し、社会に普及させる事業

西村啓太 ヨーク大学院 1年

環境に良い事を、特別な事として考えるのではなく、自分達が普段の感覚として考える事ができるように、様々な立場の人々が、互いに協力しあいながら環境問題に対して活動していく、次世代スタイルを築くことをめざす。

実績

【環境省主催エコライフフェアにて、エコバックを販売】

今年の6月1、2日の環境省主催のエコライフフェアにて、環境省から資金協力を得て、事業についての告知用に「環境に良いモノコトに対し、受け身にならないためのデザイン」を付与したバッグを製作して、イベント当日に販売。

挑戦

カバンほどしっかりしたものでなく、ゴミ袋ほどどうでもいいものではない。というエコバックを、一時のブームではなく、社会に浸透する事を目的とし、「使う人が興味を持てる仕組み作り」「金銭的にうまく回る仕組み作り」「最終的な行政への働きかけ」を行う。

売り上げはプロジェクトを運営していく資金（給料、宣伝費などを含む）以外に利益を出さず、発生した利益は各種慈善団体に寄付する。

目標

環境問題への意識は高いが、何も行動に移していない人々や、エコへの関心が全くない人々を含む、全ての人々が、社会の中で活動していくために、ライフスタイルや社会問題に対する提案も含め、様々な形で社会や地域にコミットしていくきっかけを作る。

湘南メディアヴィレッジプロジェクト

－湘南市民メディア構想－

市民のエンパワメント及びメディアリテラシー向上に貢献するメディアアクセス機構運営事業

石元龍太郎 慶應義塾大学 3年

市民が自らメディアを通じて社会運営へ積極的に関与することで、地域の多彩な文化・社会・経済的資源の活性化を促し、情報発信とネットワーク形成を通じて地方自治へと主体的に関与していく映像民主化社会を作る。

実績

【今夏から、市民向けメディア教育講座を開催】

慶應湘南藤沢キャンパスの協力を得て、今夏、第1回市民ディレクター養成ワークショップを開催。市民の地域活動を継続すると同時に、小学校や老人ホームでのメディアリテラシー教育講座も定期開催の予定。ローカルCATV局でのレギュラー番組制作・放送も構想しており、現在協議中。

挑戦

市民のメディアリテラシーの向上、協働作業による番組制作を通じて、地域の多彩な文化・社会・経済的な資源の活性化を促す。

市民が身近な問題を発見し解決する力を養い、情報発信とネットワーク形成を通じて地方自治へと主体的に関与していく環境を作る。

目標

メディアと視聴者の間に存在した一方的な社会関係を崩し、主体的に地域作りに関与し、企画する力を持つ市民を育成する。

市民がローカル化されたチャンネルを通じてつながり、メディア展開を通じてさらに外に開かれたネットワークを構築する。

まさに市民一人一人から始まる街づくりを行うことをめざす。

活躍するETIC.出身アントレプレナー

起業家：(株式会社ファクトリアル 取締役 大久保和彦氏)



<http://www.fact-real.com/>

- ・東京工業大学入学、ロボットコンテスト出場
そこで、多分野に興味を持つ海外の学生に刺激を受ける
- ・大学3年次(98年)起業家セミナーに参加、VBへの関心を抱く
- ・同年、株式会社EDコントライブにて、ソフトウェア販売用ECサイトの立ち上げを、構想からサービスインまで担当
- ・大学4年次、株式会社MT&カンパニーにて、マーケティングコンサルティングのアシスタントを経験
- ・東京工業大学大学院進学
- ・2000年、大学院を休学し、株式会社ファクトリアルを創業
- ・修士論文は、自社製品開発テーマでもある「モバイル端末における新たな検索システム開発」にて取り組む予定

社会起業家：(NPO法人山形ベンチャーマーケット 代表 稲葉裕氏)



- ・地方での生活に憧れ、筑波より山形大学へ入学
- ・大学3年次、起業家セミナーに参加
- ・大学4年次を1年間休学して、リサイクルショップを運営する東京のベンチャー企業(トレジャーファクトリー)でインターンを経験
- ・仕入れ、値付け、在庫管理、販売管理、店舗経営、アルバイト管理など、あらゆる業務を経験
- ・山形に戻り、地元のリサイクルショップの経営をオーナーより任される
- ・大学卒業後、リサイクルショップを運営(年商1億円)するかたわら、山形の若者を支援するNPO、山形ベンチャーマーケットを立ち上げる
- ・地元商店街の協力を得て、空きビルを1棟格安で借りきり、3坪5000円で貸し出すチャレンジショップを展開
- ・既にチャレンジショップから5店舗が独立

社内起業家：(株式会社資生堂 経営企画室 小室淑恵氏)



- ・大学3年次(97年)、米国留学中に、インターネットライフに触れる
- ・働く女性をインターネットで支援したいと考え、資生堂に入社を決める
- ・大学4年次、内定後に、インターネットビジネスの経験を積むために、株式会社ネットエイジ(設立2ヶ月目)にてインターンを経験。
ホテル向けのインターネットサービス導入の新規事業を成功させる。
- ・株式会社資生堂入社、奈良支店勤務(通常5年程度は地方勤務)
- ・2年目に、東京本社経営企画室にて、新規事業開発サポートスタッフとして抜擢
- ・3年目、自らが提案した事業プランが採用され、現在、新規事業開発担当責任者として活躍中

起業家：(株式会社エンパワメント 代表取締役 佐藤克氏)



- ・日本大学4年次、将来独立を目指し、外資系PC専門商社の株式会社シネックスにてインターンを経験
- ・同社にて、独立採算型の新規事業部門立ち上げに成功
- ・ベンダー(取引先のメーカー)から広告宣伝予算を取り、その資金でアルバイトを雇用して、PCショップへの販売促進活動を行う
- ・大学卒業と同時に、同社とともにインターンをしていた仲間と、株式会社エンパワメントを創業
- ・オンライン上でのキャラクターを用いたビジネスのコンサルティングから、実際のキャラクター開発まで取り組む
- ・現在は、大手企業のインターネット系新規事業部門との提携を強めている

これまでにEIP経験後創業したOBOG

- ・(株)ブックオフ一橋 代表取締役 有園桂氏
- ・(株)バーズ 代表取締役 加藤希尊氏
- ・(有)アルケミスト 代表取締役 岡本あゆ子氏
- ・(株)イーメルル 取締役 金本定謙氏
- ・ゾフロブジャパン 取締役 壁谷周介氏

など13名(ETIC.OBOGの創業者総数は約30名)

ETIC.インターンシップ受入OBOG

- ・(株)エンパワメント 代表取締役 佐藤克氏
- ・(株)トレジャーファクトリー 代表取締役 野坂英吾氏
- ・(株)ミレー 代表取締役 早坂世治氏 など

NPO法人 ETIC.

